

定型発達と呼ばれている私たちにも「心と身体はくっついているな」と感じさせるできごとがあります。緊張すると汗をかいたり、悩み事があると眠れなくなったり、心身ともに疲れていると風邪をひいたり、という具合です。いずれも医学的には、心と自律神経系や免疫系システムとの関係で説明ができる事柄で、緊張と発汗の関係は、緊張する→交感神経系優位→発汗であるし、疲労→免疫活動の低下→ウィルス感染→風邪、ということになります。

知的障がいの方々は、自分の心身の状況をじょうずに言語化できるわけではありませんので、心と身体の関係は、さらにくっつきやすい状況になると思われま

す。A子さん、心の葛藤状況が生じると必ずと言って良いほど、歯が痛くなります。それは、例えば、「妹からの誕生日プレゼントが届かない」ということであつたり「特別養護老人ホームに入所しているお父さんに、インフルエンザ感染予防のために面会ができない」ということであつたりします。

歯が痛い場所が、虫歯でないことが確認できれば、私たちの対応は、妹さんに電話でプレゼント発送の確認をしたり、お父さんとの面会の代わりにテレビ電話をお願いしたり、今後の面会の予定をカレンダーに記入したりということになります。歯が痛い→歯科通院では、Aさんが本当に助けてほしいことを助けていることにならないわけです。もちろん一件落着すれば、彼女の歯が痛い訴えは無くなります。

B子さん、予定されていた面会や帰省が急にキャンセルになると、必ず膝が痛くなりました。職員は、長年の経験の中で、その因果関係を知っているわけですが、本人の訴えをまずは大切に

にして通院します。もちろん通院治療だけでは膝の痛みは治まらないのですが、家庭との連携の中で、次の面会、帰省の日程が決まってくると、スーッと膝の痛みは消えていくのでした。ここでも膝が痛い→整形外科通院では、彼女の本当に助けてほしいことを助けることにはな

っていません。3週間～1ヶ月が、カテーテル定期交換の目安なのですが、時に定期交換を待たずにカテーテルが詰まることがあります。それは「お姉さんが手術しなくてはならないことを聞いたり」、「お兄さんが体調を壊して、面会が延期になったり」したときに生じました。つまり心配事が生じると尿道カテーテルが詰まるということになります。

もちろん、尿道カテーテル交換の通院はしますが、その一方で、お姉さんの手術やお兄さんの体調の悪化は、現実

に生じていて、変えることができない事実ですので、お姉さんやお兄さんに対してできることはなんだろうと、本人といっしょになって考えます。その答えは、「千羽鶴を作って送ろう」だつたり「お守りを買って送ろう」だつたりするのですが、これで彼の突発的な尿道カテーテルの詰まりは解消していきます。

D子さん、嚥下機能が衰えてきて、普通食から刻み食、そしてとろみ食へと食事形態が年々変化してきています。残念ながら、そんな慎重な配慮の中でも誤嚥をして誤嚥性肺炎を発症してしまう時があります。しかし、この誤嚥でさえも良く情報収集をし、その中で何回かの経験を積み、それを分析することで、心のあり方との因果関係を見出すことができます。

誤嚥については、本人が口を結んだ後の「あと一口食べようね」のその一口が誤嚥を生じさせるといいますが、それは、本人の<主体的な意思>と<飲み込むという運動>との間の強い関連性を私たちに教えてくれています。Dさんは、ご両親の高齢化による衰えを一方で感じながら、一方で自分の意思を強く持ちたいと考えるようになってきています。面会の日程を自分で決めたい、面会の内容を自分で決めたいという思いが、ご両親の意見とぶつかる

と決まって誤嚥を起こしたのです。

こうして、いつも私たちの支援は、医療的なケアと心のケアとを両輪にして進んでいきます。